

「春暁(漢詩の風景)」要点と解説 (期末テスト対策ポイント)

「春暁」基本情報

春暁書

春眠不覚暁
 夜来風雨声
 花落知多少
 处处啼鳥聞
 春眠暁を覚え
 夜来風雨の
 花落つること
 知る多少

春暁(しゅんぎょう)

作者:孟浩然(もうこうねん)
 詩の形式:五言絶句(ごごんぜっく)
 ※孟浩然是、唐代(中国の王朝の名前)に活躍した詩人

「春眠暁(しゅんみんあかつき)を覚えず」という言葉は、日本でもよく使われるね。実は中国の詩から生まれた言葉だったんだね。



「春暁」のテスト対策ポイント

テスト対策ポイント①詩の形式について

詩の形式とは、「詩の形のパターン」と考えてもらえばOK。

ひとつの詩に、いくつの句（ひとまとまりの言葉）があるかとか、ひとつの句は、いくつの文字で作られているかとかでパターンが決まっているよ。

「春暁」は、「五言絶句」という形のパターンでできているんだ。

この「五言絶句」という詩の形式は、テストで必ず出されるといってもいいくらいなので、絶対に覚えておこう！！

「五言絶句」とは

まず、「絶句」というのは、「ひとつの詩が4つの句」でできているもののこと。

そしてさらに、ひとつの句が「5文字」でできているものを「五言絶句」というんだ。

まず、「春暁」には4つの句があるね。

1. 春 眠 不 覚 暁
2. 処 処 聞 啼 鳥
3. 夜 来 風 雨 声
4. 花 落 知 多 少

だから「絶句」だということが分かるね。

そして、それぞれの句は、「5つの文字」で作られているね。

だから、「五言絶句」なんだね。

「起承転結」の構成になっている

「春暁」の4つの句は、「起承転結」の構成になっているんだ。

「起」とは、「歌い起こし」。つまり、「スタート」というイメージかな。

そしてそれを受けて、さらに発展させているのが「承」。

物事をうけいれるとき、「承知しました」というように、「承」の字を使うよね。



「転」では、急に場面が変わるよ。
そして全てをまとめて締めくくることが、「結」だね。

「春暁」では「押韻」が3箇所に使われている！

押韻というのは、わかりやすく言うと「韻を踏む」ということだよ。

ラップとかでよく使われているよね。

漢詩では、押韻をするときは「第二句」と「第四句」の終わりの文字で韻を踏むのが決まりなんだけれど、

「春暁」では「第一句」と「第二句」そして「第四句」で韻が踏まれているよ。

第一句 春 眠 不 覚 暁 (gyo:ギョウ)

第二句 処 処 聞 啼 鳥 (cho:チョウ)

第四句 花 落 知 多 少 (soy:ショウ)

「ギョウ」「チョウ」「ショウ」が韻を踏んでいるね。

テストで、「押韻が使われている箇所を答えなさい」という問題が出る学校もあるので、覚えておこうね。

テスト対策ポイント②それぞれの句の意味について

第一句

「春眠暁を覚えず」という句は、

「春の眠りは気持ちが良いくて、夜が明けたことも気がつかないくらいだ」という意味。

第一句は起承転結のうちの「起句」だったね。

「春の眠りはとっても気持ちがいいよね」と話をスタートさせているよね。

第二句

「処処啼鳥(しよしよていちょう)を聞く」という句は、

「あちらこちらで、鳥の鳴き声が聞こえる」という意味。

「処処」が、「あちらこちら」ということだね。

「啼」は「啼く」という漢字だから、鳥の鳴き声ということになるんだ。



第二句は起承転結のうちの「承句」だったよね。

第一句では春の話をスタートさせたよね。そこに、あちらこちらで鳥の鳴き声が聞こえるという情景を伝えて、話をふくらませていっているよね。

第三句

「夜来風雨(やらいふうう)の声」という句は、

「ゆうべは、風雨の音がしていた」という意味。

「夜来」とは、「ゆうべ」ということ。※「ゆうべからずっと」という意味だという説もあるよ

「風雨」は、日本語でも使われるように、雨と風のことだね。

風も強く吹く雨が降ったのかもしれないね。

「声」と書かれているけど、雨や風はもちろん喋ったりしないので、これは雨や風の「音」ということだよ。

第三句は起承転結のうちの「転句」だったね。

第一句も、第二句も、春ののどかな話をしていたのに、突然、夜の雨風の話が始まって、情景が急展開しているよね。

このギャップで、読み手は「おっ」と、さらに興味を持って先が知りたくなるね。

第四句

「花落つること知る多少」という句は、

「(ゆうべの雨風で)花はどのくらい散ってしまっただろう」という意味。

「花落つる」は、「花が散ること」だね。

「多少」は「どのくらい」という意味だよ。

第四句は起承転結のうちの「結句」だったね。

第三句で、夜の風雨という少し暗いイメージに変わってしまっていたところを、その雨風のせいで散った花が庭にたくさん散りばめられていて、鮮やかな情景にまた戻って全体をまとめあげているんだ。



テスト対策ポイント③漢詩の知識について

↓ 書き下し文^{くだ}

春眠曉を覚えず
 処処啼鳥を聞く
 夜来風雨の声
 花落つること知る多少

↓ 白文^{はくぶん}

春 眠 不 覚 曉
 処 処 聞 啼 鳥
 夜 来 風 雨 声
 花 落 知 多 少

春 曉

○ で囲んでいるものが「返り点」

白文・訓読文・書き下し文とは何か理解しよう！

漢詩は、もともと中国の人が作った詩だよね。
 つまり、当たり前だけれど、中国語で作られているんだよ。
 ということは、そのままでは日本人が読んだり意味を理解するのは大変だよね。
 そこで、中国語が分からない日本人でも読めるように工夫しているんだ。

このとき、まだ工夫していない、中国語として書かれているもとのままの詩の状態を「白文」といって、日本語に近づけるために返り点や送り仮名などをつけたものを「訓読文」、そして、その工夫をもとに、漢字とひらがなを使って日本語に近づけたものを「書き下し文」というんだ。

上の図だと、右側の「漢字だけの状態」のものが白文、
 右側の「返り点」などが加えられたものが訓読文、
 左側の日本語に近づけられているものが書き下し文だね。

ちなみに、現代の日本語としてもっと違和感のないように直したものを、「口語訳」というよ。



「春暁」に使われている返り点を確認しよう！

さて、ではどうやって工夫して日本語っぽく近づけるのかだけれど、このとき使うのが「返り点」というものなんだ。

中国語と日本語では文法が違うんだから、言葉の並び方だって違うよね。

日本語で「私は昨日テレビを見ました。」という文があったとして、

英語なら「I watched TV yesterday.」となるよね。

「昨日」と「yesterday」の位置もそれぞれ違うし、「見た」と「watched」の位置も変わるよね。

日本語と中国語も同じ。

でも、日本語と英語に比べたら、日本語と中国語はどちらも「漢字」を使うから、ちょっと分かるよね。

なので、あとは「言葉の順番をどう変えたらいいか」を伝える記号さえあれば、もっと意味が伝わりやすくなるんだ。

「返り点」というのは、「この言葉は、あの言葉よりも先に読むよ」とか、「この漢字に送り仮名をつけて読んでね」などを伝える記号のことなんだ。

テストでは、どの位置にどんな返り点があるか、問題に出ることがあるよ。

実際に自分で書き込まなくてはいけないことが多いので、しっかり対策しよう。

まる覚えしてしまう方法もあるけど、おすすめは「書き下し文と白文を比べて、同じ言葉の順番になるように、ルールにしたがって返り点を考える」力をつけること。

そうすれば、覚えていなくても、それどころかはじめて見た漢詩でも、白文と書き下し文を見れば返り点が書き込めるようになるよ。

漢詩の風景「春暁」テスト対策まとめ

「春暁」まとめ

- 春暁の詩の形式は「五言絶句」
- 作者は唐代の詩人「孟浩然」
- 起承転結の構成で作られている
- 第一句・第二句・第四句で押韻が使われている
- それぞれの句の意味を理解しよう！
- 白文と訓読文、書き下し文とはなにか理解しよう！
- 春暁で使われている返り点を確認しよう！

